

私たちは ジオと、どう関わればいいのか そして、どういかせばいいのか



鹿児島大学名誉教授
桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会委員

大木 公彦 OKI KIMIHIKO

【profile】

福岡県戸畑市（現北九州市戸畑区）出身
昭和44年 鹿児島大学理学部地学科卒業
昭和44年～平成12年

鹿児島大学理学部助手・助教授

【昭和62年 理学博士（東北大学）】

平成13年～平成24年

鹿児島大学総合研究博物館・理工
学研究科教授

平成17年～平成24年

鹿児島大学総合研究博物館 館長

「ジオパーク」 その魅力とは

ジオというのは、私たちの暮らしに直結しています。ジオ（地球・大地）と私たちがどのように付き合っているのか、ここに生かされているのか。それを学ぶ場が、ジオパークなんです。

世界遺産は、「残す・守る」ことにウェイトを置いているのですが、ジオパークは、「ジオ」＋「パーク＝公園」ですから、皆さんが楽しむことに加えて、学ぶことができるんです。もちろん、そこにある自然を壊してはいけません。ジオパークは、「遊ぶ・学ぶ」ことにウェイトを置いているんです。

ですから、700万年の人類の歴史が、大地とどのように関わったかを学び、現在から未来へ、どのように関わっていくべきかを、「自分たちの暮らしの中に落とし込むことができる」それが「ジオ」＋「パーク」の大きな魅力のひとつです。

「ジオパーク」と どう関わればよいか

垂水市には、美味しいもの、素晴らしい景観が沢山ありますよね。つまり、自然の恵みをとっても多く受けている地域だと思えます。

しかし、何故こんなに美味しいものが多いのかを説明できる人が、沢山いるとは言えないと思えます。それは、極端で失礼な言い方をすれば、「自然への畏敬の念がない」という非常に残念なことなんです。私たちは、昔からずっと自然に生かされて、自然の恵みをいただいていた。昔の人々は、その自然に畏敬の念をもって、災害等の怖い部分も含めて、理解しようとしていました。

ですから、現代の私たちは、自然に感謝することから始めて、そして自然の恵みを理解しようとするべきだと思います。それが、ジオパークと関わる第一歩になるかもしれません。

数あるジオ資源を どういかせべきか

何よりも、大いに宣伝・発信することが大事です。私が鹿児島大学総合研究博物館の館長をしていたころ、様々な手法で情報を発信しました。それは、どんなにすごいモノでも、発信して、知ってもらわなければ意味がないと思っただけなんです。

例えば、垂水の水はおいしいと良く知られていますよね。では、何故水がおいしいのかというと、岩石からのミネラルが溶け込んでいるからなんです。つまりジオからの恵みを受けた資源と言っているのです。そして、水がおいしいなら、全ての食材に繋がっているということなので、数多くのおいしい食べ物、元を辿れば、全てジオからの恵みを受けているんです。

そういった意味では、各商品の説得力を増すためにも活用できると思います。商品で縦割りにせず、繋がりを持たせて宣伝・発信すべきだと思います。

観光面では どういかせべきか

ジオパークのテーマの一つに観光があります。パークと言っている以上、当然観光面も考えて、お客さんに来てもらう工夫をしなければなりません。

ただ、程度の問題もあります。大きな駐車場を作るとか、単純にアクセスを良くするということでは無いと思うんです。今の観光は、楽に行けることも重要視されていますが、ジオパークについては、そうではなく、苦労してでもそこに行きたくなるような工夫をしなくてはならないと思います。

例えば、ジオパークに行けばこういうモノがある。こういうことが学べるということ。パンフレットやホームページなどで発信した上で、実際にその地を訪れる方に向けて、道中に看板を設置するなどの、誘導の部分が重要だと思います。

それから、「観光」とは何か、もう一度考えてみる必要がある

と思います。観光という字を見れば分かると思うのですが、光を光景と捉えて、みるという漢字は「見る」ではなく、「観る」と書きますよね。これは、観察するとか観測するという意味で、ただ単に見るのではなく、美しい光景が、何故このように美しいのか観察する。おいしい食べ物、何故こんなにおいしいのかを考える。それが本来の、本当の観光だと思います。まさにジオパークの考え方ですね。「観光＝遊び」だけではないということですね。観光客の皆さんも、ただ綺麗な景観を観たり、おいしい食べ物を食べるだけよりも、その理由を知ると、より楽しめて、もう一度、垂水を訪れてくれると思います。

その為に、垂水市民の皆さん全員が、ジオのガイドになってくれればと思います。何も本当のガイドになるということではなく、レストランで働く方が、食材の美味しさを、ジオを絡めてお伝えできれば、もう立派なジオガイドだと思います。

市民の皆様へ メッセージを

桜島に隣接し、高隈山や猿ヶ城溪谷、ブリ・カンパチなど、数多くのジオ資源に恵まれている垂水に対して、垂水市民の皆さんが、誇りを持ってほしいと思います。誇りを持つということは、垂水を良く知ることにつながります。

その誇りを、訪れた人たちに、いきいきと発信することが、ジオと関わり、ジオをいかにすということだと思います。

